

神奈川山梨教会連合会報

# かりん

神奈川山梨教会連合会

## 一泊研修会報告

### 吉川信雄先生講演の要旨



『親子三代の信心』を語られる  
福岡高宮教会 吉川信雄 師

六月十六日(土)、十七日(日)の二日間、年金保養センター「さがみの」で、一泊研修会が開かれました。テーマは、『今、活き活きした教会を求めて』。参加人数一〇八名、(二日目の懇談には二十三名の参加)。

定刻の一時半、型通りのセレモニーのあと、福岡高宮教会の吉川信雄先生をお迎えして、二時間十五分にわたって「親子三代の信心」と題した講話を頂きました。今号では、その講演の要旨を掲載させていただきます。

☆ ☆ ☆

お話は、吉川家の入信経緯に始まった。先生のお父様の初代福岡高宮教会長吉川定治郎先生は、京都の大きな料亭に生まれたが、六歳の頃に店は人手に渡り、ご本人は緑内障で失明されてしまう。定治郎先生は7番目のお子さんで、その上のお子さん方はすべて早逝されていた。つまり非常にメダリの深い家であったと言う。

お母さまが金光教に入信されたことから、開眼のおかげを頂かれる。小学校を三年で中退し、丁稚奉公に出た定治郎先生は、商売のコツを会得されて、若くして成功されるが、ある時大損をされ逃げるように当時の満洲・奉天に渡る。その街で忘れていた八波のご紋を見付け、フアラフと何者かに引かれるように教会に入り、初めて自覚的な信心に目覚められる。稲津博見先生の信頼を得て、修行生となり後にハルピンに開拓布教に出られ、当時の一等教会にまでお引立てを頂かれるが、やがて敗戦、昭和二十一年信雄先生が十五歳の時に大変なご苦労をされ、日本に引き揚げて来られた。

引き揚げ後のこと、定治郎先生は、ハルピン布教に出られた時に「生涯お下がりで外は食べない」と言う誓いを立てられたので、今更商売をする訳には……と躊躇されたが、「まず親教会の復興をしなければならぬ。そのためには財が要る」ということから決心をされて、喫煙具の仲卸商で一家の生活を支え、親教会の復興に貢献される。また奥様は、当時本部で御用をしておられた稲津親先生に、毎日お弁当を届けるといふ細やかな心遣いをなされ、その後、別府に布教に出られた後は、毎日お弁当代として三十円を積み立てておられた。肺結核で亡くなられた後、褥を上げたら親先生名義の貯金通帳が出てきて、それを見た親先生はハラハラと涙をこぼされた、と言う。

信雄先生の下に五人のご姉弟がいて、一番小さい人は二歳。小さいお子さん方は預け、大きいお子さんだけを連れて布教に出ることに決めていたが、それでは姉弟バラバラになってしまう。「お父さんが再婚してくれたら、姉弟一緒に暮せるんだから」と、信雄先生はお父様を説得され。定治郎先生は再婚。ご一家揃って布教に出られることになった。

その後、今度は信雄先生が肺結核に罹られ、ある晩に吐血、血が止まらず、「ここで眠ってしまったら、もう目が覚めること(以下、三頁上段に続きます)

昭和四十五年、金光教師を拝命して以来、有難いことに、何らかの形で教務とか、連合会の事務局、総務等を経験させてもらってきました。

昨年十一月、心筋梗塞が再発し、多くの方にご迷惑をおかけしましたが、教会のご用以外はすべて辞めさせて貰うことになりました。さまざま活動に携わっている時は、色々と見ているようで見えなかったり、聞いているつもりが聞こえなかったり、今振り返ると、改めて気付かされたり、反省させられることばかりであります。

教師になりたての頃、教祖九十年祭の金光講演会を横浜開港記念会館で迎えるために、その諸準備と信心共励が、連合会において様々な形で開催されていきました。その時、教師も信徒も念頭に置いておりましたのが、「私たちの信心はこれでよいのか」ということでありました。講演会では、東大の笠原一男師より「金光教の信奉者の皆さん、このままで良いのですか」と問われ、神奈川県東部連合会では改めて「教会とは何か」「人が助かる教会、人が育つ教会、あるべき姿はなんなのか」を求め、すでに活動していた『研信会』の中では、教会の組織や教務と

## これからの連合会

いう事に取り組み『青年による金光教を考える会』では、機関紙の発行や勉強会などに取り組み、神奈川県西部連合会での『教師・信徒の合同による連合会』では、常に教団の動向をみたり、『西部青年の集い』などが生まれてきました。

その後、東西両連合会では、様々な問題を抱えながら、昭和六十四年一月一日合併、更に時を経て山梨県連合会との合併がなされました。多くの仲間や見聞を広めることは素晴らしいし、勉強にもなります。

しかし、組織が大きくなることにより、予算も増え、気配りや目配り、心配り出来にくい、人が育つ働きや連合会としての役割が十分に果たせなくなることもあるのではないかと。そこで、もう一度改めて信徒部が進めて下さった『金光教を考える会』の

中身である「教会とは何か」を見直し(研究会を編成)、人が育ち合う、道を伝えて行く教会や連合会を考える時『教会が連帯して、地域における教団活動を推進するため、教会活動の互助連絡および布教活動等を行うとともに、教区活動を担う』という目的に少しでも近づけることが出来るのではないかと、離れてみて改めて感じたような次第であります。

## 全体を見られる高齢者になろう

神奈川教会 大塚 東子

私がこの欄の担当を仰せつかって間もなぐ二年。この回が最終回になります。

私はこの二月に六十五歳になり、自治体で認められた高齢者の仲間入りをしました。実はこの時を待っていました。自分が高齢者にならなければ、高齢者に対する厳しい意見を言うのは難しい、自身が高齢者になったら、遠慮なく厳しいことが言える、と思っていたからです。

アメリカにAARPという団体があります。五十歳以上の中高年を対象とする会で、高齢者に需要の高い商品を割引提供したり、就職斡旋したり、職業訓練をするなど、中高年に対する総合的互助組織です。年間の予算は一千億円近いとか。問題はその政治力にあります。全米の政治家一人ひとりについて、「高齢者対策についてどれくらい熱心か」でランク付けをし、投票ガイドを作るだけではなく、ボランティアとして高齢者に有利な政策を実行する政治家を応援する、高齢者に不利な政策を発表する政治家には、電話やメールで攻勢をかけるなど、政治的な圧力団体として強大な力を持っているのだそうです。その実力は、かのアメリカ大統領が震え上がるほどだ、と言うの

はないだろう、なんと情けないことか。私は親孝行をしてきたのに……」と思った。その時、胸に「お前は無じゃ」という言葉が響いた。「そうであった。父はメグリの深い家に産まれて、あの時、父が死んでいたら、自分は影も形も無かったのだ。ここまで生かされてきたことに、どんなにお礼を申しても申し足りない。文句を言える筋合いではないのだ」と気づき。お礼のご祈念をされているうちに、いつしか眠った。目覚めた時「まだ生きています」と思ったが、その時から薄紙を剥ぐように少しずつ良くなれば、七十五歳になる今日まで、胆石の手術で入院したことで、悪性の風邪で二日寝たほかは、御用を休んだことはない。

金光様のお言葉で、布教地に福岡を頂かれ、昭和二十六年八畳一間のお広前から出発した教会は、現在一千五十坪の境内地に、週刊誌に何度も紹介された斬新なデザインの会堂と体育館まで完備した施設を持ち、活き活きとした教会活動を続けておられる。

その後信雄先生には、学院に入られて、昭和三十三年に教師を拝命。病気のために高校中退という学歴ながら、学院の講師も勤められて、三十九年には定治郎先生の跡を受けて、二代目教会長に就任。開教五十年祭、七十歳で次男の信吉先生に教会長を譲られて、現在は在籍教師として教会教団の御用に当たられておられる。



吉川信雄先生の講話に聞き入る  
当日の参加者（年金保養センター「さがみの」）

不徳の身に余る勿体ない位のおかげを頂き、ただただ恐れ入るばかりであるが、祖母が入信したあと、夜遅い商売でありながら、決して二度寝はせずに目が覚めた時を神様が起こして下さったと思って、朝早く日参していたという、実意な信心と両親の親教会親先生を立て抜く信心に守られて、今の私があり、今日のご比礼を頂いているのではないかと、話を結ばれた。

☆ ☆ ☆  
お話を聴いて、今眠ったらもう目覚めないだろうというところから頂いた命と健康  
(以下、四頁上段に続きます)

です。

少子高齢化というのは、子供の数が少なく、年寄りが増えるということですが、子供には選挙権がありません。年寄りは幾つになっても選挙権があります。ここがこの問題の落とし穴ではないでしょうか。誰でも、年金は出来るだけ沢山欲しいですし、医療や福祉は充実しているほうが良いのに決まっています。が、果たして、自分たちの利益を考えるだけでいいのでしょうか。予算には限りがあるので。数を頼んで自分たちの利益を主張したくなつた時、ちょっと立ち止まって、全体のバランスを考えた方がいいです。

子供や孫の未来、日本の行く末、地球の将来を見据えて、「自分にとって何が損か得か」ではなく、「何が正しいか間違っているか」を判断の基準にしたい、タダの欲張りじいさんやばあさんに終わってはいけない、と思うのです。日本でも団塊の世代が高齢者の仲間入りをし、中高年の政治活動が盛んになるだろうと予想されています。

環境・教育問題などに長期的な視野を持つこと、深く考えること、判断の基準を誤らないように心掛けて頂きたいのですが、金光教の教えを基本に置いて考える習慣を持つてば、間違いない結論が出せるに違いないと、私は、思っています。

のおかげ、少年ながら敗戦後のハルピンで毛布や宝石をロシア人、ユダヤ人相手に売ったり、喫煙具の仲卸商を手伝ったりという経済のおかげ、お父様が再婚されて人間関係のおかげと、先生ご自身が奇跡的なおかげをたくさん頂いておられるので、「どんな時でも、金光教の信心をしていて、おかげを頂けないということはない。世間から奇跡と言われるようなおかげを必ず頂けるのだ」という確固とした信念を持っておられるのがヒシヒシと感じられました。

その上、戦後の一時期は信者として教会に籍を置かれていたので、外から教会を見るという貴重な経験があり、それを生かして教会の運営に当たられているのではないかと、思わせて頂きました。ともあれ、あっという間の二時間十五分、先生からは最初に「長時間なので、お手洗いなど席を立つことは遠慮なく」というお言葉を頂いていました。立つ者も居眠りをする者もなく「良いお話を聴かせて頂いた」という充実感で一杯の講演でした。

☆

なお、先生のお話を詳しくお知りになりたい方は「江流」という小説風の本（教徒社で販売中）をお読み下さい。また、この後の質疑応答、翌日の懇談の模様については、次号で報告させて頂きます。

（神奈川教会 大塚 東子）

### 『女性のつどい』

今年は山梨で開催し、神奈川と山梨の交流をより深めたいと思います。みんなで有意義で楽しい二日間を共有し、リフレッシュしましょう。

日時 十月二十九日(伊)～三十日(火)  
日程 29日 甲府教会で講話と懇談会。大嶽山参拝などを予定。

30日

西沢溪谷・ワイナリー 見学などを予定。

移動はすべてマイクログラスで行います。

参加費 7000円を予定

(二泊二食、集合場所からの交通費込み)

※詳細は、後日各教会宛てに送付されるポスター・チラシなどをご参照下さい。

### 訃報

金光教小田原教会長宮川宜信先生には七月五日六十一歳三ヶ月にてご帰幽になりました。ここに謹んで哀悼の意を表し、お知らせいたします。

### 〈な・が・れ〉

#### 『殺伐とした世の中を信人して変えよう』

生麦教会 高橋 正一

毎日のように、親が子供を、子供が親を殺す。などなど殺人の報道のない日は少ない。

先日、新聞・テレビで学校の先生にうちの子供には給食当番、掃除当番はさせないで下さいと言う父兄がいて、弁護士に相談しているという記事があり驚きました。何でこんな殺伐とした世の中になったのでしょうか。日本の良さ、世界一だっただと思います。お互いに励まし合い、支え合い、助け合い、強い絆で結ばれたあの日本人は昔話になったのでしょうか。

今こそ信人を広め、感謝に気付き、どんなことでも「ありがとう」の精神を忘れずに時を送る。私は世間一般への取次者として、教祖様、金光様に喜んでもらえる日々を送る。つまり常に出会った人の幸せを頭の中で願い、人に尽くし喜んでもらう。自分自身の喜びよりも、人に尽くしその人が喜んでくれる姿を見ると、もっと嬉しい。その私を教祖様、金光様は喜ばれると思います。

このことを日々の目標とし、一人でも多くの人に語り、伝えていきたいと思っております。

金光教神奈川山梨教会連合会

発行者 須賀院 明德

編集責任者 村田 光治

〒211-0068 川崎市中原区小杉御殿町二一八二  
金光教武蔵小杉教会内